

第1回 有識・議員部会 開催概要

日 時：令和2年11月16日(月) 18:30~20:00

場 所：尼崎市役所 議会棟2階 議員総会室

出席委員：久部会長、小坂委員、小森委員、堂園委員、松原委員、村田委員、安田委員、丸岡委員、楠村委員、徳田委員、山崎委員

欠席委員：川島委員、綿瀬委員

事務局：中川政策部長、橋本都市政策課長、都市政策課職員

【議事要旨】

議題1 開会

- 事務局より部会の進め方について説明

議題2 「尼崎らしさ」について

- 「尼崎らしさ」について各委員から発表

- ・「住みやすさ」…とにかく便利。自転車で自由に移動できる。
- ・「イメージの悪さ」…自身が学生の頃、青少年の非行が多かったという記憶があるが、いまだに、何か悪い事件があると、「『また』 あまがさき」と表現されるなど、世間的に悪いイメージが払しょくできていない。
- ・「女性の視点」…ファミリー世帯を取り込んでいくためには、共働きが多くなっていることもあり、女性の目から見て、安心して働くことができ、安心して生活できる、女性にとって住みやすい環境にしていくことが重要

- ・「6地区それぞれの特色」…市の成り立ちから、6地区という考え方が根強く残っており、1つの市でありながら、6つの特色がある。
- ・「人と人のつながりやすさ」…開放的な場所が多く、それが面白さにつながっている。自虐的な話し方も、笑いにかえてしまう力をもっている。
- ・「新陳代謝」…新しく人が入ってくるので、古いイメージが無い。
- ・「ジェットコースターのように」…公害の歴史、環境モデル都市など、上がったりがったりする。
- ・課題が他市と比較し早く生じている
- ・新しくストーリーが作れるまち

- ・「稼ぐ力」…物価が安い、低所得者が多い、競艇場や競馬場もあり、稼ぐ力によりまちに活気を
- ・「活気あふれる」…交通利便性が良く、尼崎城や歴史博物館など、観光にも注力している。これから2025年の万博に向けてインバウンドを取り込み、さらに活気を生み出していきたい。
- ・マナー向上…気を使わない生き方ができるまち。アメリカでいうとニューヨーク。ただ、マナーが良くない。ポイ捨ても多く感じるが、最近は歩きスマホが多い。

- ・「変化、代わり映えのまち」…公害のまちから、市民、事業者、行政による環境改善による取組など、変化がすごい。代り映えという点で、尼崎は誇れるまち
- ・「庶民性の良さ」…良い意味でも、悪い意味でも地名を「あま」と略す。
- ・マナー改善は課題
- ・阪急沿線の整備が必要
- ・「コミュニティが脆弱」…すべてが行政でできるわけではない。そのためコミュニティ構築が必要
- ・全国でも珍しい社会福祉協議会の仕組み

- ・「住みやすさ」…交通、買い物など、便利がいい。
- ・産業と環境が共生するまち
- ・一方で通過してしまうまちでもある。
- ・「イメージの悪さ」…悪いニュースばかりマスコミに取り上げられるイメージ
- ・地域ごとに特性があるまち…地域や場所に合わせたまちづくりが必要

- ・地元の結束が強い
- ・「ガチャガチャしたまち」…そこに入れない人から見ると、少し怖い。このガチャガチャ感が良さでもあり、弱点でもある。ただ、これがなくなると尼崎でなくなる。
- ・「おもしろいまち」…西宮は教育のイメージがあるが、尼崎のような面白さはない。
- ・「趣のあるお屋敷があるまち」…芦屋の奇抜な豪邸ではなく、趣のあるお屋敷も尼崎らしさ。
- ・「シビックプライド」…プライドをもってPRすることが大事

- ・「負のイメージ」…警察署の数で見ても西宮は2署、市域の狭い尼崎で過去4署あった。
- ・「あま」…市外の人が使う「あま」はマイナスのものが多い。中の人を使う「あま」は自嘲的に使われる。
- ・「尼崎は歴史あるまち」…歴史をもっとPRすべき
- ・「特化したまちづくり」…イメージを変えていくには、ターゲットを絞るなど、とがった施策を徹底的にやることが重要。

- ・「イメージ」…昔の尼崎はイメージが悪く、学校の教師でさえも尼崎を悪く言っていた。
- ・「イメージの違い」…久留米市に視察に行った際に、久留米市の方から、尼崎は阪神間のハイソなまちと言われた。尼崎の悪いイメージについては、阪神間から離れると変わる。
- ・「歴史あるまち」…弥生、平安、鎌倉時代から京都との水運で栄えた歴史があり、江戸時代には城下町として栄えた。こういった背景、重みをしっかりと引き継いでいくことが重要

- ・「市民運動が活発」…工業都市として発展してきた尼崎ならではの活発であるが、住民運動が活発である。しかし、それはスマートではなくどちらかというと泥臭い。まちの発展に伴い、公害など暮らしに矛盾が発生し、それが市民運動に。

- ・「らしさとは」…史実、地政学から「らしさ」を導くのは難しいが、「人」が絡むことで「物語」が生まれ、「らしさ」が現れる。
- ・「多様な市民が多い」…階層、収入、学歴、文化など、多様な階層性が強み
- ・「中間階層の脆弱化が課題」…階層の二分化が深刻となり解決が必要
- ・「多様性」…多様性とは、みんなに分配、支援するということ。誰かの利益は誰かの損。となると、特化した政策は難しくなる。

- ・「歴史とつながり」…豊かな歴史、近松門左衛門ゆかりの地、名所旧跡を持った市であり、地域資源や人のつながりを生かした環境の都市づくりを実践している。
- ・「交通の要所」…歴史的に交通の要所であり、菅原道真など多くの有名人が通過した地である。
- ・「力強さ」…公害を乗り越えてきた歴史があり、清濁併せのむ力強さを持っている。
- ・「交通利便性」…45万人 22万世帯の中核都市であり、JR、阪急電車、阪神電車が東西を走っており、市内はもちろん大阪、神戸等への交通の利便性が良い。
- ・「自転車のまち」…坂道が少なく、自転車で市内を移動できる。反面、歩行者にとっては、危険を感じる場面が多々ある。
- ・「施設の充実」…住みたい街の条件である買い物施設、病院、公共施設等が充実している。
- ・「気質」…漫才、落語などお笑い文化が町に浸透して、気質として、一様に親しみやすく、懐が深く、人情味にあふれている。多くのタレントや有名落語家を輩出している。
- ・「多様性」…沖縄や九州などの地方出身者を受け入れてきた歴史があり、自然と多様性にあふれた面を有している。
- ・「実行力」…元気でなんでも面白がり、興味を持ち、ためらいなく行動に移すことができる人が多い。

- ・「良いイメージが伝えきれていない」…昔の悪いイメージを引き継いでいる。親のイメージの刷り込み。市民ですらそういったイメージがある。イメージと実態の乖離をしっかりと伝えていくことが重要
- ・「工員のまち」…口より前に手が動く。技術もある。なんでも作れる。
- ・「再チャレンジのまち」…「尼落ち、布施落ち」という言葉があった。大阪船場で商売を失敗した人が、尼崎や布施に来る。逆に捉えれば、再チャレンジできるまち。また、そういう人を受け入れるまち。包容力や多様性。
- ・「ターゲットに合わせたアプローチが必要」…阪神間とそれ以外では尼崎に対するイメージが異なる。
- ・「『混在』から『複合』へ」…「混在」はつながりが無く、「複合」はつながりがある。あるものをどうつなげてストーリー化していくか。例えば、ファミリー世帯にターゲットを絞っても、それで税収が上がれば、高齢者支援もできる。スタートを絞りつつ、波及させて、様々なものを獲得していくことも可能。

議題3 閉会

- 事務局から今後の予定等について連絡

以上